

児童学研究

平成15年2月 第33号

巻頭言

- 「児童学科」半世紀に、保育の質向上を目指して……………佐藤益子……………1
高木徳子
村榮喜代子

原 著

- 高機能自閉症者のパニック軽減についての一考察 一事例Kを通して……………高木徳子……………5
折笠美穂
高島美穂
- 投影樹木画法における実の教示を巡る Buck 法と Koch 法の比較研究 ……大辻隆夫……………19
塩川真理
田中野枝
- 栄養カウンセリングの現状と課題 一指導から受容、そして分析へ……………大辻隆夫……………24
塩川真理
平塚信子
鈴木里香
阿部 彩
- 児童虐待者の自発的来談動機と虐待動機について
—虐待する母親のカウンセリングの一例を通して—……………大辻隆夫……………34
内海有弘
上川貴子
- 投影樹木画法における枝のカウンセリング効果指標化に関する研究 ……大辻隆夫……………43
村井佳比子
- 高齢者虐待における介護福祉的アプローチとその課題 —臨床カウンセリング導入の検討—……………大辻隆夫……………60
上川貴子
- 翻 訳
- 描画の発達的理解……………大辻隆夫……………69
松葉健太郎
- 対 談
- 即興演奏とコミュニケーション……………片岡祐介……………80
野村 誠
- 児童学科だより……………92
平成13年度 家政学研究科児童学専攻修士論文論題一覧
平成13年度 児童学科卒業研究論文論題一覧

児童学科だより

児童学科公開講座

子どもと親のためのゼミナール（第14回）

2002年7月6日（土） 13:30～17:30

■心の悩みを聴く体験学習 D校舎学生ホール
—カウンセリング実技講座—

大辻 隆夫(本学助教授)
石野 泉(本学非常勤講師)

2002年7月7日（日） 10:00～12:30

■コンサート&音楽遊び体験
「ワクワク音楽会」音楽棟ホール

野村 誠(本学講師・作曲家)
片岡 祐介(元岐阜県音楽療法研究所
研究員・打楽器奏者)
片岡 由紀(音楽療法家)

2002年7月7日（日） 13:30～14:30

■講演「音楽療法と創造性」音楽棟ホール

片岡 祐介(元岐阜県音楽療法研究所
研究員・打楽器奏者)
コーディネーター 野村 誠(本学講師・作曲家)

児童文化・児童文学ゼミナール（第43回）

2002年11月30日（土） 13:30～17:00

■講演「自作を語る —『はなのみち』を中心に—」
「教科書と児童文芸」

岡 信子(作家・日本児童
文芸家協会理事長)
岡田 純也(本学教授)

2001年度 家政学研究科児童学専攻修士論文 論題一覧

- | | |
|--|-------|
| 1) 精神分析的治療場面における患者の知覚変容についての一考察
—“new object”としての治療者の発見— | 秋山 恵子 |
| 2) 自閉症児・者の知覚世界と描画世界についての一考察
—自閉症児・者援助プログラムのための臨床心理学的基礎研究— | 大野田 絢 |
| 3) 幼児における社会性の発達についての一考察
—社会性の発達指標の再検討を中心に— | 表原 心 |
| 4) 障害児・者のきょうだいの性格傾向に関する一考察 | 澤田 智子 |
| 5) 自己矛盾の葛藤と苦悩に関する精神分析的一考察 | 嶋 篤子 |
| 6) 熊本の昔話 語彙研究 | 高瀬 安代 |
| 7) 家族の心理的問題が子どもに与える影響について
—Family System Test を用いて— | 田口 恵子 |
| 8) 作業同盟と転移神経症の相補性に関する一考察 | 中川千佳子 |
| 9) 乳幼児—親心理療法に関する一考察 | 波多野伸江 |
| 10) 性別同一性障害についての一考察 —心的葛藤をもつ母親からの分離への苦闘— | 樋口 直美 |
| 11) 群馬のわらべうた研究 | 八幡眞由美 |
| 12) 遊びから見たストレスマネジメント指向に関する一考察 —青年期を中心に— | 横田まどか |

2001年度 児童学科卒業研究論文 論題一覧

<児童心理学>

(指導 田川元康教授)

- | | |
|---|----------------|
| 1) 母親のしつけ観が子どもの社会性発達に及ぼす影響 | 植村左知子
星野 裕子 |
| 2) わが国における自閉症児教育を考える —TEACCH に学ぶ— | 太田由紀子 |
| 3) ストレスとコーピングへの養育態度の影響 —女子大学生の調査結果から— | 西村 奈緒
広瀬 千夏 |
| 4) 知的障害児の就学に及ぼす決定要因 | 宮下沙知子 |
| 5) 言語発達遅滞児の発達経過についての一考察
—健診時要観察児の胎児期から就学時まで— | 門田 昌子 |

(指導 高木徳子教授)

- | | |
|---|-------|
| 1) ダウン症児N. U. の事例研究 | 伊藤 一菜 |
| 2) 知的障害児S. K. の事例研究 | 小池佐智子 |
| 3) 自閉症児M. K. の事例研究 | 志賀多希子 |
| 4) 自閉症児J. E. の事例研究 | 畑 智子 |
| 5) 失行症児T. Y. の事例研究 | 松本 和枝 |
| 6) 自閉症児K. S. の事例研究 —教科学習の向上と集中力の変容を中心に— | 山根 敬子 |

<児童保健学>

(指導 佐藤益子教授)

- | | |
|--|-------------------------|
| 1) 周産期ハイリスク児における身体発育および行動発達に關与するリスク因子の解析 | 青塚 順子 |
| 2) 幼児における多動性障害簡易スクリーニングテストの検討 | 衣笠 有佳
西原奈緒美 |
| 3) 病児保育のあり方についての意識調査 | 後藤 美和
中川統紀子 |
| 4) 多動性スクリーニングテストにおける病型分類の試み | 高橋二美香
辻本 照代
良田 真希 |

(指導 衣笠紀玖子講師)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1) 幼児期における親のしつけが大学生の生活習慣に及ぼす影響 | 池田 美穂
香西さつき |
| 2) 子育て環境における児童虐待の発生子防 —親子の意識調査からの検討— | 中原 優 |
| 3) 「女子大生が抱く理想の生き方」 | 廣瀬由美子
藤田 純子
松岡 奈央 |

<児童文化学>

(指導 岡田純也教授)

- | | |
|-------------------|-------|
| 1) ディック・ブルーナの作品研究 | 池上 麻子 |
|-------------------|-------|

- | | |
|---|-------|
| 2) 戦中における児童文学作品の考察 (白秋・準一・義美) | 今村舞衣子 |
| 3) 絵本における繰り返し構造の分析 | 岩田 紘佳 |
| 4) 壺井栄児童文学作品研究 | 溝上 美奈 |
| 5) 手塚治虫に関する研究 ―ブラックジャックを中心に― | 大江 希 |
| 6) お菓자에付属するおまけの考察 | 落合 裕子 |
| 7) 「サザエさん」に関する考察 | 小野 博子 |
| 8) 宮崎駿作品論 ―となりのトトロを中心に― | 小林 まよ |
| 9) シンデレラ考察 ―本当に恐ろしいのかグリム童話― | 雪 妙子 |
| 10) 小学生児童の塾・習い事の実態と意味 | 高畑佐代子 |
| 11) 現代の子どもにとってのゲーム及び人形の考察
(テレビゲームとリカちゃん人形を中心に) | 武田南津子 |
| 12) 安房直子作品研究 | 脇田屋雅子 |
| 13) ディズニーアニメーションに関する研究 ―くまのプーさんを中心に― | 田中久美子 |
| 14) 金子みすゞの詩研究 | 藤井 景子 |
| 15) ガブリエル・パンサンの作品研究 | 松村 香里 |
| 16) 幼児のおけいこごとの実態と功罪 | 水野 可奈 |
| | 大和 千恵 |

(指導 村榮喜代子助教授)

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| 1) 淡路島の児童館についての考察 ―各市町に1児童館の実現に向けて― | 足立 友美 |
| 2) 親と子の外出における環境についての調査研究 | 上中居有紀 |
| 3) 鬼ごっこに関する考察 ―年代別調査を中心に― | 大川麻希子 |
| 4) 「木」と人とのつながり ―「木」のおもちゃを通して― | 奥西 理 |
| 5) いわさきちひろ絵本研究 | 柏原 美果 |
| 6) 長 新太 論 | 片岡 志麻 |
| 7) 名前からみる親心 | 亀井 千春 |
| 8) ごっこに関する考察 ―アンケート調査を中心に― | 葛原由香梨 |
| 9) シュタイナー教育の研究 | 清水 里美 |
| 10) テーマパークの研究 ―ディズニーランドを中心に― | 田中美千子 |
| 11) 入院児におけるあそびの課題 | 三浦 亜紀 |
| 12) 玩具と子どもとの関わり ―神賀忠吾の遊具を中心に― | 森田祐巳子 |
| 13) 北原白秋童謡論 ―大正期の作品とその展開― | 昌山 睦美 |
| 14) テディベアに関する研究 ―創作活動を通して― | 明石 優里 |

<児童教育学>

(指導 船岡三郎教授)

- | | |
|---|-------|
| 1) 自然と幼児の関わり方 | 石井 智美 |
| 2) 虐待を犯す母親の心的メカニズムとその背景 ―A子の事例を通して― | 井上 智恵 |
| 3) 非行少年に関する事例研究 ―その心的メカニズムと力動性― | 中沢 絵里 |
| 4) 京都市の子育て支援対策における現状と課題 | 岩崎 文美 |
| 5) 友だちとうまくいかない子 ―仲間関係と親子の相互関係について― 事例研究 | 鷺野 道代 |
| | 内村 梓 |
| | 宇津美由貴 |
| | 大石 雅代 |

- | | |
|--|-------------------------|
| 6) 子どものパーソナリティの不一致と母親の養育態度について | 大野 直子
糸内 悦子
清水英里子 |
| 7) 家庭内暴力について —暴力に隠された子ども達の心の叫び— | 加藤佐恵子 |
| 8) 家庭内暴力に至る心的構造と親子関係についての一考察 | 齊藤 知美
寺田 恭子 |
| 9) 学級崩壊について —その背景にある子どもからの SOS— | 志村 朋子 |
| 10) 不登校を考える —タイプ別による事例と対応・援助— | 関 美奈子 |
| 11) 内的ワーキング・モデルの形成と再構築
—母子間のアタッチメント関係を通して— | 高瀬 裕美 |
| 12) 幼少期に性的虐待を受けた子どもの心理についての一考察
—ある2人の女性の事例を通して— | 高園 薫
藤本 恵子 |
| 13) 少年犯罪における心的メカニズムについて —神戸連続児童殺傷事件を通して— | 田中 美起 |
| 14) 親の離婚・再婚が子どもに与える影響
—子どもを幸せにする離婚・再婚家庭の在り方に関する一考察— | 野田 理保 |
| 15) 育児の世代間伝達について —ある家庭の事例を通して— | 南 かずみ
森兼 瑞絵 |

(指導 大辻隆夫助教授)

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1) 現代青年におけるセルフ・エスティームと性役割意識との関連について | 有本 雅子
菅沼 和子 |
| 2) HTP テストにおける描画抵抗と性格との関連性について
—大学生女子を対象として— | 伊東 早苗
垣内喜美代
中島 久美
木田百合子 |
| 3) 母親の養育態度が青年期の依存性に及ぼす影響について | 井上 牧子
梅本 和代
平井麻衣子
平田香福美 |
| 4) グループ・カウンセリングにおけるパーソナリティの変化に関する研究
—Cantlay 法 HTP と YG 性格検査からの検討— | 内田 博子
木戸 可織
森永 礼子 |
| 5) 幼児における水遊びの効果としての心理的成長について
—投影樹木画法を中心として— | 坂畑佳容子
早田磨理子
舟田 真希 |
| 6) 母親の養育態度と子どもの自主性について | 白井 弘美
吉村充輝子 |
| 7) 思春期における移行対象についての一考察 —生涯保持の視点から— | 土屋 茜 |
| 8) 出生順位と性格の関連について —2人きょうだいを中心に— | 原 美奈子 |
| 9) 母親の養育態度ときょうだいの性格特徴の関係について | 石賀 潤子
金田 真琴
岸本 静香
瀬戸 香織 |

- | | |
|--|------------------------|
| 10) 幼少期における父子関係が人格形成に及ぼす影響について | 野中 望
平尾 香奈
平木 香織 |
| 11) 母親の養育態度が子どもの性格形成に及ぼす影響について | 久野 愛
村上 吏奈 |
| 12) 現代青年期女性における瘦身願望（ダイエット願望）と性格特性について
—女子大学生のアンケート調査から— | 富田 明子 |

<児童表現学>

(指導 野村 誠講師)

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1) パネルシアターに願いをこめて —現状と可能性— | 山下 絵美
佐藤 日奈
杉瀬 綾
野口 智子 |
| 2) 青少年有害社会環境対策基本法案が与える影響 | 西田三千代 |
| 3) 手作り楽器 —「てんてこ」の活動を通して— | 林 景子 |

<仏教学>

(指導 野村伸夫教授)

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1) 仏教説話の伝来と日本における展開 | 山内 美和 |
| 2) 宗教教育の必要性 —高校生の宗教意識調査を通して— | 石田 有希 |

投稿規定

1. 本誌の投稿資格は、京都女子大学家政学部児童学科所属の教職員および編集委員会が必要と認めたものとする。
2. 本誌は児童学の諸領域に関する原著論文、綜説、評論、研究報告、情報、紹介、書評、および児童学科の諸活動に関するニュース、その他などを掲載する。
3. 原著論文は未公刊のものに限る。
4. 一論文の長さは、原則として400字詰原稿用紙50枚までとする(図表も含む)。ただし、編集委員がとくに必要と認めたものはこの限りではない。
5. 印刷に際しては、原則として無料であるが、とくに費用を要するものには著者が負担しなければならない場合がある。
6. 執筆要領：
 - (1)原稿は、横書きを原則とし、当用漢字、新かなづかい、算用数字を用いる。外国語はすべてタイプで打つ。
 - (2)外国の人名・地名は、原語を用いる。その他の外国語には、なるべく訳語をつける。
 - (3)図表・グラフには原則として欧文のタイトルをつける。
 - (4)参考文献は、本文の終りに原則として、著者の姓を基準にA、B、C順に配列する。同一著者では年次順とし、さらに同年の場合は、1968a、1968b、のように区別する。

文献の書き方は以下の例示のようにする。

〔雑誌〕

- 1 Biederman J, Steingard R (1989) Attention-Deficit Hyperactivity Disorder in Adolescents. *Psychiatric Annals* 19:587-596.
- 2 佐藤益子, 水田隆三 (1986) 低出生体重児の行動発達—学童期におけるソフトサイン— 児童学研究 16:3-13.

〔単行本〕

- 3 Touwen BCL, Prechtl HFR (1970) The neurological examination of the child with minor nervous dysfunction. *Clinics in Developmental Medicine* 38:London, Spastics International Med. Publ.
- 4 寺道由晃 (1986) 日常生活指導, 三河春樹(編); ぜんそく児療養の手引き: 東京, 金原出版, 15-48.

〈注〉機関誌は巻, 号, 頁の順とする。単行本は著書名, 出版地, 出版社, 引用頁とする。機関誌名は, 著名なものに限り略記してもよい。

(5)本文中に参考文献を引用した場合は, 原則として著者名・出版年号のみを記載すること。

(6)論文には, 欧文の表題, 著者名, 所属を必ず添附する。

(7)原著論文には, 原則としてタイプ用紙2枚以内の欧文抄録をつけること。

7. 執筆者に対しては, 当該論文を単位として, 別冊30部を無料で贈呈する。それ以上の希望がある場合には, その実費を負担しなければならない。

8. 原稿の採否は本誌編集委員会によって決定する。

9. 原稿は, 京都女子大学家政学部児童学科「児童学研究」編集係宛にとどけるものとする。

〈本誌刊行規定〉

1. 本誌「児童学研究」は、京都女子大学家政学部児童学科の研究活動、およびそれに関連する諸情報を公報することを目的として刊行される学術研究機関誌である。
2. 本誌の刊行は、原則として当該年度に一冊とし、年度に関係なく通しナンバーをもって表示する。
3. 本誌は、児童学科関係教職員および学外の児童学関係者に配布される非売品である。
4. 編集委員会は、児童学科教室会議を構成する教員メンバーによって組織され、その代表者（以下、編集責任者という）は、当該年度の児童学科図書委員をもってこれにあてる。
5. 本誌の刊行責任者は、当該年度の児童学科主任とする。

〈編集後記〉

児童学研究第33号をお届けいたします。

今号の巻頭言は、本学科の保育士課程設置に多年の努力を傾けてこられた佐藤益子教授、高木徳子教授、村榮喜代子助教授の3氏より、「児童学科」半世紀に、保育の質向上を目指して、と題してご寄稿いただきました。来年はその第一期生を世に送り出すことができます。本学科の保育士課程の成否が問われる社会的第1歩となります。学科一丸となって更なる努力を続ける所存です。読者各位の暖かいご支援と厳しいご指導をお待ちいたしております。

さて今号は、原著論文6編、翻訳1編に、本学科気鋭の講師野村誠氏による音楽療法に関する対談記録1編のご寄稿をいただきました。

掲載論文を含む本誌へのご意見、ご感想はもとより本学科へのご提言等もよろしく願います。

(大辻隆夫記)

児童学研究 第33号 (非売品)

平成15年2月5日印刷

平成15年2月10日発行

編集責任者 大 辻 隆 夫

刊行代表者 田 川 元 康

発行所 〒605-8501

京都市東山区今熊野北日吉町35

京都女子大学

家政学部児童学科

TEL (075)531-7135-7137・7260

印刷所 株式会社 昭英社

TEL (075)351-1811 FAX (075)365-0113

E-mail shoetsya@10v.ocn.ne.jp

Archives of Paidology in Kyoto Women's University

February 2003 No. 33

CONTENTS

Preface

- A Half Century in the Department of Paidology-Toward the High Quality of Child Care ... Masuko Sato 1
Noriko Takagi
Kiyoko Murae

Original Article

- A Attempt to Reduce Panic Behaviors in a High Functioning Autistic Adult
—A Case Study of K— Noriko Takagi 5
Miho Orikasa
Miho Takashima

- A Comparative Study on the Instruction of Buck's Technique "Draw a Tree" and Koch's Technique
"Draw a Fruit Tree" in the Projective Tree Drawing Technique Takao Otsuji19
Mari Shiokawa
Noe Tanaka

- The Present State and Tasks in Nutrition Counseling
—From Guidance to Acceptance, and to Analysis—... Takao Otsuji24
Mari Shiokawa
Nobuko Hiratsuka
Rika Suzuki
Aya Abe

- On the Child Abuser's Motivation of Voluntary Consultation and Abuse
—Via a Case of Counseling with a Mother Abusing her Six-Year-Old Daughter— Takao Otsuji34
Arihiro Utsumi
Takako Uekawa

- The Study on Effective Indicators of Counseling through the Use of Branch-
Drawings in the Projective Tree Drawing Technique ... Takao Otsuji43
Keiko Murai

- A Study on the Approach of Care Working with an Abused Elder Person and its Issues
—Toward an Introduction of Clinical Counseling in Elder Abuse— Takao Otsuji60
Takako Uekawa

Translation

- Developmental Aspects of Drawings Takao Otsuji69
Kentaro Matsuba

Dialogue

- Improvisation and Communication Yusuke Kataoka80
Makoto Nomura

- Announcements92

Published by Dept. of Paidology, Faculty of

Domestic Science, Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

Representative: Takao Otsuji

Editor : Motoyasu Tagawa